

国際環境 NGO FoE Japan

2009 年度 活動報告



ご挨拶

2009 年度は、夏に民主党が政権交代を果たし、温室効果ガス 25%削減の中期目標発表、事業仕分けの実施など、環境政策にも変化が現れました。FoE Japan は、その動きの中で、温暖化対策基本法案や ODA の見直しに関し、重点的に政策提言活動を行いました。その他、フェアウッドカフェや森のプレゼント事業を通じてのフェアウッドの認知度向上、気候変動枠組み条約締約国会合 (COP15) に合わせたアクションの実施など、イベント、アクションを通じた市民の環境意識への働きかけを強化しました。

1980 年に誕生した FoE Japan は皆様のご支援により今年 30 周年を迎えることができました。その節目の今年、名古屋で生物多様性条約の締約国会議も行われ、環境問題への関心が一層高まることが期待されます。真に公正な政策の実現を求めて、本年度も政策提言や情報発信を効果的に行ってまいります。

FoE Japan 事務局

気候変動

2009 年度は、12 月にデンマークのコペンハーゲンで開催された気候変動枠組み条約第 15 回締約国会合（COP15）を中心に、京都議定書第一約束期間以降の新たな国際枠組みの合意に向けた交渉が大詰めを迎えました。FoE Japan は、コペンハーゲン会合での公平で実効性のある合意を求める活動とともに、国内の実効性のある削減のためのしくみづくりに向けた活動を展開しました。

コペンハーゲン会合での合意を求めて

国際社会は、2007 年のバリ会合で確認されたバリ・ロードマップに基づき、京都議定書の次の枠組みをコペンハーゲン会合で合意することをめざして作業をすすめてきました。しかし、先進国と途上国の中長期の排出削減分担をめぐる溝は埋まらぬまま、12 月のコペンハーゲン会合を迎えました。FoE Japan は、特に REDD(途上国の森林減少対策)、資金メカニズム、適応対策の分野に焦点をあて、新たな枠組みづくりにクライメートジャスティス(気候の公平性)を求めて、コペンハーゲン会合、および6月のボン、10月のバンコクにおける事前会合に参加しました。FoE インターナショナルや他 NGO とともに国連や各国政府への働きかけ、街頭デモンストレーションおよびメディアへの情報発信を行いました。



コペンハーゲンの街中を青色で埋め尽くした「洪水」パレード



COP15 にあわせて渋谷でパレードを実施

また、同時に日本国内でも、重要な気候変動国際交渉への関心を高め、日本の市民の声を発信するため、東京・下町でアクションを実施、フォトメッセージを集め、FoE インターナショナルを通して、国連と各国首脳に届けました。さらに、MAKE the RULE キャンペーンでは、東京・渋谷でパレードと街頭アピールを行いました。

気候変動における資金メカニズム

国連の気候変動交渉において、途上国への気候変動対策支援のための資金メカニズムの議論は重要な争点となっている中、二国間・多国間援助による支援事業はすでに数多く実施されており、気候変動対策支援への公平性や環境社会配慮の確保が急がれています。FoE Japan では、国連交渉での資金メカニズムの構築に公平性を求める働きかけを行いながら、フィリピンの地熱発電やカンボジアの REDD 事業などすでに実施段階にある途上国の気候変動対策事例を調査、分析しました。3月には、国連の議論、国際金融機関、日本の動向、さらに事業事例の評価を踏まえ、途上国への気候変動対策支援の現状と課題を議論するセミナーを開催しました。また、セミナーでの議論と調査結果をまとめた冊子「気候変動と資金メカニズム」を発行しました。

MAKE the RULE キャンペーン

日本においては、8月末の政権交代を経て、「2020年に1990年比25%削減」の新たな中期目標の発表、地球温暖化対策基本法の制定に向けた動きなど、大きな進展がありました。

FoE Japan は、2008年8月より国内の約200団体とともに、日本が温室効果ガスを確実に削減するためのしくみづくりを求める「MAKE the RULE キャンペーン」を展開してきました。日本が、科学の警告に基づき先進国としての責任を果たすレベルの中長期目標を設定し、そのための経済的なしくみを導入することを含む法律の制定を求め、これまでに全国

で 35 万人以上が請願署名に参加しました。FoE Japan は、キャンペーン事務局を担うとともに、8月にライブ音楽イベント「MAKE the RULE NIGHT」を開催するなど、将来温暖化が進行すれば影響を受けることになる若い世代に、気づきと行動を促す活動を行いました。

欧州の気候政策調査とレポート発表

FoE Japan は、先進国の中でも、世界で初めて温室効果ガスの削減を長期にわたって国に義務付ける「気候変動法」を成立させた英国の政策に関し、調査研究を深め、日本の温暖化政策に活かすための活動を行いました。5月には、英国大使館にて、シンポジウムを開催、英国の政府、産業界、NGO がそれぞれどう行動し、協働しながら低炭素社会に向かおうとしているかを紹介、その講演録と前年度からの調査研究成果等をまとめた冊子を発行しました。また、12月に FoE 欧州がストックホルム環境研究所と共同で発表した欧州の 2020 年 40%削減を提案する報告書を翻訳発表、日本の中長期ロードマップづくりへの貴重な提案として紹介するセミナーを3月に開催しました。



シンポジウム「英国気候変動法と低炭素社会の構築」

地域における温暖化防止活動

公立学校における省エネと光熱水費節減分還元プログラム(フィフティ・フィフティ)に関し、全国の自治体の実施状況を再調査しました。報告書は 2010 年度に発行予定です。また、各地での講演活動を行いました。

2009 年の 成果

- ◇ 国連交渉における国際市民社会ネットワーク活動への REDD、適応分野の協力
- ◇ コペンハーゲン会合での公平で実効性ある合意を求める現地と国内のアクションの連携
- ◇ MAKE the RULE キャンペーンで求めてきた数値目標入りの地球温暖化対策基本法の成立に向けた動き
- ◇ 欧州政策調査をまとめた冊子の作成と国内ロビーでの活用
- ◇ 気候変動と資金メカニズムに関する事例調査と冊子発行

森林と生物多様性保全

2009年度は、これまでの調査・提言活動に加え、より一般の方々に近い普及啓発活動を積極的に展開し、「フェアウッド」の認知度向上に取り組みました。

フェアウッド普及促進活動 ～フェアウッド・パートナーズ

フェアウッド調達支援～コンサルティング :多種多様で大量の木材製品を使用する積水ハウスや東急ホームズなど住宅メーカーに対して、調達木材の違法伐採などのリスク評価や、調達ガイドラインの運用支援、仕入先業者向けの勉強会での講演などを実施しました。また違法伐採リスクの高い木材混入の恐れがある家具・インテリア業界向けには、ワイズワイス社のフェアウッド調達指針の策定、国産材や FSC 認証材を使用した製品開発の支援、またインテリアプランナーや家具メーカー対象のセミナー講演を実施しました。

フェアウッド普及啓発 :

- フェアウッドカフェ 多くの消費者に「フェアウッド」という言葉やコンセプトを知ってもらい、実際にフェアウッド製品を選んでもらうため「食卓からフェアウッドを始めよう」を趣旨として、大阪・万博公園、東京・新宿御苑、山梨・清里などの野外フェスティバルに「フェアウッドカフェ」を出店。森林農法のフェアトレードコーヒー、木の实たつぷりの焼き菓子、パンなどの提供、フェアウッドでモダンなデザインのテーブル、チェア、木の皿、カップ、箸、スプーンなど、フェアウッドなキッチン・テーブルウェアの展示販売を行いました。



フェアウッドカフェ@ライフスタイルフォーラム

- 森のプレゼント 森のプレゼント事業の関東版をスタートしました。対象となる林地は古くから江戸への木材供給を担った西川林業地(埼玉県飯能市周辺)。初年度は10台の間伐材ベンチを製作し、豊島区、台東区、所沢市などの小学校、幼稚園計5カ所に寄贈しました。寄贈時にはワークショップを実施し、児童・父兄と日本の森林について学びました。西川林業地のほか、静岡県天竜川上流域、吉野林業地などで、企業・個人からの寄付、助成金を活用し、合計40台の間伐材ベンチを製作、計12カ所に寄贈しました。

- アムールトラねっと 2年目となった「アムールトラねっと」では、更なる普及・啓発を目指し、活動に賛同してくれた動物園との連携強化の他、啓発キットの拡充、多方面への情報提供を実施。横浜市野毛山動物園の「どうぶつたちのSOS展」においてイベントを数回実施。啓発キットの作成も含め、サポーターやボランティアの方々の継続的参加を軸にした活動を展開しました。その他、2010年寅年に合わせた各種メディアでの掲載、出演を通じ、アムールトラとその生息地である森林の現状を伝え、問題解決への行動を呼びかけました。

フェアウッド調査 :

- 生産地調査 日本が木材を輸入している国々の森林や木材生産・流通の最新情報を把握することを目的に、パプア・ニューギニア、ロシア、ベトナム、マレーシア、中国の調査を実施しました。

里山再生プロジェクト

東京八王子・宇津木の森で保全活動を継続。森の手入れから利用まで、参加メンバーが中心になって実施し、石窯パーティー、森のほいくえん「つぎっこ」など新たな企画が実現。里山利用の幅が広がり参加も増えました。

生物多様性関連活動

生物多様性政策研究会の開催 2008年度、企業の生物多様性に関する活動の評価基準案を作成した検討委員会を発展させ、生物多様性に関する政策研究会を7回実施(座長 跡見学園女子大学の宮崎正浩教授)。2010年10月のCBD-COP10に向けた生物多様性保全に関する政策提言をまとめました。3月には、日本生態学会開催に合わせてシンポジウムを開催しました。

連続セミナー「人々の生物多様性」：人々が利用し、生活の基盤を築いてきた生態系の重要性、そして日本とのつながりをテーマに、(財)地球・人間環境フォーラム、メコン・ウォッチとの共催で20団体の協力のものと計7回のセミナーを開催しました(第7回目は2010年4月開催)。テーマはラオスの森林、メコン河の河川生態系を利用する人々のくらし、インドネシアの森林と紙パルプ産業、ロシア極東のタイガ、映像で見るメコン河、アブラヤシ農園と日本、マレーシア・サラワクにおける先住民族と森林問題をとりあげ、参加者と積極的に議論を行いました。



サラワク州 - 伐採企業と闘う先住民族イバン人

タイガの森フォーラム

ロシア沿海地方ピキン川流域のタイガ保全活動の発展形として2009年12月に(株)リコー、(財)地球・人間環境フォーラム、パタゴニア日本支社、FoE Japanの4者の連携により「タイガの森フォーラム」を発足しました。発足に合わせてシンポジウム開催、エコプロダクツ2009出展、ブログ開設など、積極的に情報発信を行いました。

2009年の
成果

- ◇ フェアウッド・パートナーズ始動、タイガの森フォーラム発足
- ◇ 森のプレゼント・間伐材ベンチを40台製作、計12ヶ所へ寄贈&ワークショップ実施
- ◇ 連続セミナー「人々の生物多様性」を20団体の協力を得て7回開催。
- ◇ アムールトラねっとの新啓発キット開発。イベント実施12回、メディア掲載14ヶ所

砂漠緑化

中国・内モンゴル自治区で9年目の活動。過度の土地利用で砂漠化した大地を再生する取り組みを、村に、家庭に、さらに広げました。緑化隊をはじめ、多くの方の応援が力になりました。

活動地での緑化活動

新規2ヶ所(北ガラタシ村、アシン村)、継続7ヶ所(ダチンノール村、リャンサップ村、ヤミアイ村、アゴラ中学、西ハイスカイ村、ウリゴンホドグ村、南ガラタシ村)で活動を実施。囲い柵の設置～管理、植樹、草方格づくりなどの緑化作業を、住民が主体となって行いました。各活動地で、苗木が育ち、草が回復し、畑ができた場所も増えました。地域全体を見ると、家畜の放牧制限など土地政策の後押しもあり、住民の緑化意識がだいぶ強まったと感じます。



23次隊、地元小学生と植樹活動

一方で、柵の管理が行き届かず、回復したのに逆戻りという場所がありました。植えたら終わりという活動に終わらせず、手入れ・管理の大切さが浸透するように、苗木の育成、苗畑でのポット苗づくりを呼びかけ、一緒に始めました。

家庭農牧場支援

砂漠を緑化再生し農牧地に活用する家庭規模の緑化「家庭農牧場」の普及をめざし、募金による支援を実施。前年集まった募金で、新たに35戸を支援、各家庭で緑化に取り組みました。

緑化ツアー・情報発信

緑化ツアーや活動報告会、ホームページ等での情報発信を行い、活動への参加・協力を呼びかけ、多くの方に参加・協力をいただきました。

2009年の
成果

- ◇ 活動地が2ヶ所増え累計11ヶ所に、家庭支援は35戸増え累計50戸に
- ◇ 活動地と家庭支援を合わせた総支援面積が2,498haに(参考：豊島区は1,300ha)
- ◇ ツアーを3回実施し、延べ39人が参加。累計23回338名に

開発金融と環境

2009 年度前半は、国際協力機構（JICA）の環境ガイドラインの改訂、また後半は外務省が進める「政府開発援助（ODA）の見直し」に関する政策提言が活動の中心になりました。個別プロジェクトのモニタリングでは、フィリピンのコーラルベイニッケル製錬事業を中心に、国際協力銀行（JBIC）や JICA 等の政府機関や企業への積極的な提言活動を実施しました。また、現地のニーズに即した開発のあり方を提案するためにインドネシアで住民主体の気候変動対策を実施しました。

JICA の環境ガイドラインの改訂と、ODA の見直しに関する政策提言

2008 年 2 月より有識者委員会で改訂の内容が議論されていますが、FoE Japan は同委員会に委員として参加し、一貫して議論に貢献してきました。今年 4 月に制定された JICA の新環境ガイドラインでは、他の NGO と共に JICA に提出した「NGO 共同提言書」で取り上げた多くの点が反映され、情報公開の拡充等様々な改善が図られました。

また、民主党政権が ODA 見直しを開始したことを受け、過去の ODA 事業のモニタリング経験を踏まえ、ODA の重点を「コンクリートから人へ」シフトさせること、また独立した JICA の評価体制を構築すること等の提言を行いました。



コーラルベイニッケル精錬事業（フィリピン）
現地調査の様子

開発事業のモニタリング

サハリン 1・石油・天然ガス開発事業、フィリピン・コーラルベイニッケル製錬事業、マレーシア・パハン スランゴール導水事業、フィリピン・サンロケ多目的事業等、ニューカレドニア・ゴロニッケル事業を中心に、JBIC、JICA、日本政府、企業、国会議員等への様々な働きかけを通じ、事業の問題の改善を目指し活動しました。



コミュニティによるマングローブ植林の様子
（インドネシア）

インドネシアの現地プロジェクト

洪水都市スマランの気候変動影響に適応するため、農村部ではアグロフォレストリーを、沿岸部ではマングローブ再生・保全活動を住民主体で進め、住民と地方行政との協働体制も構築しました。

講演、セミナー、出版

現地調査報告会の開催、一橋大学等大学や他団体のイベントでの講演を行いました。また、日本の途上国に対する気候変動対策支援に関連した冊子、「気候変動と資金メカニズム」を発行しました。

2009 年の 成果

- ◇ JICA 環境ガイドライン：情報公開の範囲の拡大、非自発的住民移転、先住民族への影響、生態系等の項目について改善が図られた。
- ◇ コーラルベイニッケル：製錬所周辺の水質調査を実施し、重金属による水質汚染の可能性を指摘。一部（事業者の関連会社が配給する飲料水）の汚染源が特定された。
- ◇ 現地プロジェクト：ステークホルダー協働のための「マングローブフォーラム」発足。

廃棄物

2009年度は、法制度面では大きな動きはありませんでしたが、スターバックスコーヒーに対するアクション、新たなセミナーシリーズの開始など、FoE Japan 独自の活動で展開がありました。

スタバ・ウォッチャー2009 / 寒中見舞いアクション

10月から11月にかけて、以前から注目してきたスターバックスコーヒーのマグ利用率を調査しました。サポーターからスタバユーザーのボランティアを募り、実際に店舗を訪れてホットドリンクを注文してもらい、約30名で、全国各地の164店舗（全店舗数の約2割）のデータを収集しました。その結果、4年前の調査時より利用率は上がり、約4割の店舗でマグカップでの提供を確認しました。さらなる利用率推進を求め、「寒中見舞い」を全店舗と本社に宛てて送りました。



スターバックスコーヒー全店舗に送った寒中見舞い

3 R 政策セミナー開始

ウェブで配信している「脱・使い捨てNEWS」と関連づけ、独自の視点から3R政策を考えるセミナーシリーズを開始しました。第1回目は、3月に脱・ペットボトルを取り上げました。

アジア3 R 推進市民フォーラム

10月に東京で開催された「アジア3R推進フォーラム」のサイドイベントとして、「アジア3R推進市民フォーラム」を、他のNGOとともに共催し、日本のNGOの取り組みを発表しました。

2009年の
成果

- ◇ スタバ・ウォッチャー2009 で全店舗の約2割で調査実施、マグカップ利用率上昇を確認
- ◇ 3R政策セミナー開始

サステナブルなまち・くにづくり

ドイツプロジェクトを引き続き展開するとともに、「日本の環境首都コンテスト」の運営に参加しました。

環境先進国ドイツに学ぶプロジェクト

スタディーツアー 9月に「環境先進国ドイツ・ハイライトツアー」(フライブルク、ベルリン)を実施。8名が参加しました。

勉強会：ドイツの原子力政策、ドイツの総選挙をテーマに開催しました。

日本の環境首都コンテスト

自治体の持続可能なまちづくりのための施策を評価するコンテスト「環境首都コンテスト」ネットワークに参加。関東地域での勉強会や、交流会の開催、およびボランティア・コーディネートを行いました。



木組みの家が立ち並ぶ町並みが美しいゲンゲンバッハで(ドイツ)

2009年の
成果

- ◇ ドイツツアー、勉強会参加者への最新情報を提供。
- ◇ 「日本の環境首都コンテスト」参加による全国の環境自治体の取り組み状況把握、関係の強化。

事務局

FoE Japan の活動はサポーターや寄付者のみなさまからの支援によって成り立っています。また、より多くの方から支援をいただいて活動することで、社会を動かす力も大きくすることができます。支援・支持の拡大を目指し、2009年度は以下のような活動を行いました。

情報発信

ウェブサイトリニューアル 活動の内容をより分かりやすく伝え、活動への支援や参加がよりスムーズに行えるようトップページをリニューアルしました。「今一番伝えたい情報」をピックアップし、よりダイレクトに伝わるようになりました。

団体紹介パンフレット改訂 新しいパンフレットは、5人のサポーターの方々に登場いただき、生活の中で感じる素朴な想いとFoE Japanの活動とのつながりが感じられるような構成にしました。他にも、これまでの歩み、現在の活動の様子などをコンパクトにまとめ、中身の濃いパンフレットに仕上げました。

ニューズレター・メールマガジン ニューズレター(年4回)やメールマガジン(月2回)の発行を通じて、FoE Japanの活動をタイムリーにわかりやすく伝える活動を行いました。

募金箱・パンフレット設置 FoE Japanの募金箱を作成。より多くの方にFoE Japanを知っていただき、支援していただけるよう新しいパンフレットとセットにして飲食店やインテリアショップなどへの設置を進めています。現在13箇所に設置中。

参加機会や交流の場の提供

環境問題に関心のある方たちが集まってお互いの関心について話し合い、FoEの活動への参加のきっかけとなるような場の提供を目指して、各種イベントを企画しました。

サポーターの日 Supporter's Cafe サポーターの日として、スタッフからの活動報告やサポーターさんの活動紹介などをテーマに6回実施しました。1月からはSupporter's Cafeとしてリニューアルし、これまで以上にスタッフとサポーター、サポーター同士が交流できるような企画を実施していきます。

日曜ハイキング 誰でも気軽に参加できるハイキングを実施。全40回、延べ380名程が参加。参加費はFoE Japanへの支援となります。

新緑の白神山地ツアー 5月22~24日 登山と自然観察、田植え体験のツアーを実施。15名が参加して交流を深めました。



大盛況のSupporter's Cafe「きりたんぼを囲んで新年会」

サポーター数の推移

昨年度は、126名が新規に入会、356名が更新していただき、2010年3月末時点でのサポーター数は506名でした。サポーター数は、2008年後半以降、主に新規入会者数の伸び悩みにより減少傾向にあります。一方で、昨年度行った会費の支払方法変更キャンペーンでは、60名の方がクレジットカードでの継続決済を選択していただきました。入会や更新手続きをより利用しやすくするシステム面の改善とあわせて、サポーターの拡大のために活動への参加機会や情報提供の充実を図っていきます。

個人・企業からの寄付

2008年度を上回る多くの方から支援をいただきました(約25%増)。携帯電話を通じての寄付など支援方法の幅が広がっています。また、企業の方には様々な寄付企画を通じて、より多くの市民にFoE Japanを知っていただけるよう協力をいただきました。

国際環境 NGO FoE Japan 2009年度活動報告書

発行日：2010年6月12日

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F

Tel: 03-6907-7217 Fax: 03-6907-7219

Web: <http://www.FoEJapan.org> Email: info@foejapan.org